

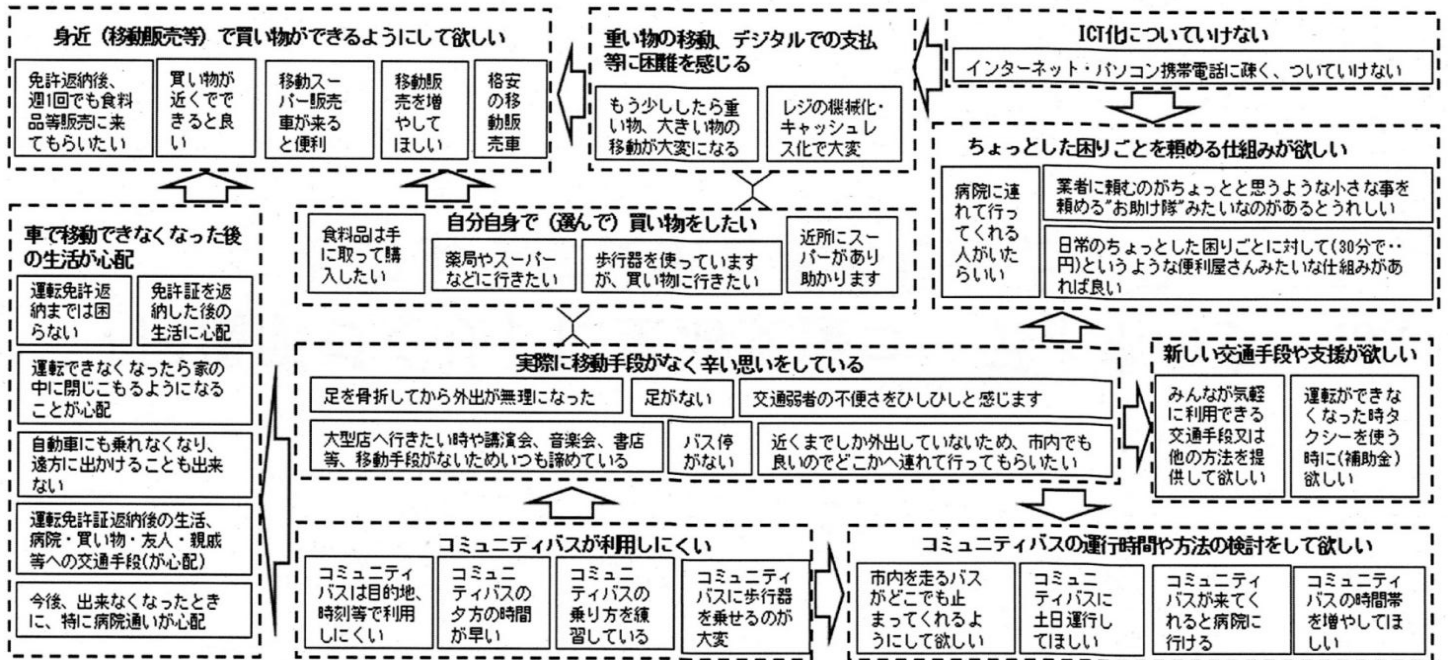
Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第75号

10月定例研究会も、「ご近所福祉」論議で盛り上がる
ご近所で支え合いのできる、日頃から語れる環境とさりげない見守り

今年度は、「ご近所福祉」をいかにして創り上げるかをテーマにしている。10月定例会では、地域環境の再構築の課題を浮き彫りにしながら、支え合う仕組みの基盤をどのようにしたら創り出すことができるか、各地の実践事例を学ぶとともに、困りごとの内容を出し合いながら意見を交わした。

- 事例に学ぶ「A市における、心身機能の低下や運転免許証を返納した後の日常生活に関する支援の必要性」
 - (1)運転ができなくなっても、生活に必要な移動(買い物)ができるようにしてほしい。(2)老化により、心身機能が衰えても、自分で買い物ができる仕組みがほしい。(3)ちょっとした困りごとを頼める人、仕組がほしい。
- とにか、く、「自助」を基に、身近なご近所においてできる支え合いを具体化するには、地域の現状を「見える化」「わかる化」して、「共助」を考えていくことの必要性があることを確認した。



●会員から、2つの困りごとの内容について意見を出し合った。

- ①一人暮らし高齢者(歩行困難)の災害時の避難介助は、
 - *自助→自宅に移動補助具を用意しておく
 - *共助→世帯調査から、個人情報保護を基に、民生委員・町内会長・組長等は、ご本人を把握する/町内会単位または、さわやかクラブ等で、常に管内のマップを作成し確認をする(見える化)。
 - *公助→移動補助具の補助制度
- ②高齢者(高齢世帯)のご近所とのコミュニケーションがとりにくいことについて、
 - *自助→日常生活では、常にご近所に話しかけていく努力/地域の行事への参加の機会をもつ/趣味や特技を仲間を持つ/回覧板をよく見る
 - *共助→さりげない見守り・安否確認の工夫/(プライバシー保護)組単位で、声掛けの努力し、決して排他的関係にしない/地域行事への参加呼びかけ/サロン活動への参加呼び掛け
 - *公助→新聞配達・郵便配達・牛乳配達・民生委員活動



*2年前(2023年11月)、ご近所の畑で、秋を十分に楽しませてくれたコスモス。今年は猛暑で.....



シリーズ②「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの10年間にかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第2回は「家庭・家族：高齢者と孫との向き合い」

孫との会話を広げるとともに、「かるた」を活用して、これまでのご近所の様子を具体的に話しながら、これからのご近所同士のつながりの大切さを語る。

■進め方

- *孫に、ご近所さんとの関わりを聞いてみる。そして、これまでの高齢者のご近所の出来事を話しながら、ご近所の方との支え合いで、生活できていることを、実体験をもとに会話を進める。
- *普段の会話の延長線上で「かるた」を紹介し、特に「絵札」から読み取れるものを問い質し、関心もてるように努める。「絵札」を紹介し、ご近所の現状と、これからのご近所を孫に託す。
- *「かるた読み札」の「キーワード」を強調する。

■楽しさの工夫

- *自由に語れる環境に努め、話題を一つづつ出す。
- *「絵札」から「読み札」を考えてみる。
- *「かるた」から地域診断を試みる。
- *「じゃんけんゲーム」「伝承ゲーム」「絵合わせゲーム」を組み入れる。

■留意点

- *「かるた」誕生を伝えて、身近な会話に努める。



シリーズ⑬ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「や」「ゆ」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



や

やかましい大人の注意で
振り返り

昔は子どもの周りに「怒るおじさん」(やかましい大人)がいたものです。でも、そのやかましい大人も「地域の教育力」であることも。



ゆ

譲り合い
してもされても
笑み浮かぶ

思いやりの行為は、した人もされた人も気持ち良いものです。してよし、されてよし「小さな親切」。

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体:静岡福祉文化を考える会QRコード